

アプライフェルテラ粒剤

[クロラントラニリプロール・チアジニル粒剤]

農林水産省登録 第22786号

有効成分 クロラントラニリプロール…
0.75%
チアジニル…12.0%

性 状 類白色細粒

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
RACコード：殺虫[28]殺菌[P3]

危険物：- 有効年限：5年 包装：10kg×1

特長

- 播種時覆土前処理によりいもち病、白葉枯病、水稲主要害虫を同時防除できる。
- アプライは稲をいもち病、細菌病にかかり難くする作用性（病害防除機能の増強）を有しており、耐性菌出現リスクが低く、既存剤に耐性のいもち病にも有効で、安定した効果が長期間持続する。また、白葉枯病、もみ枯細菌病等の細菌性病害にも有効である。
- フェルテラは、幅広い害虫に有効であり、優れた防除効果が長期間持続する。また、既存薬剤に抵抗性の害虫に対しても高い防除効果を示す。

効果、薬害等に関する注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 所定量を秤量し、均一に処理する。
- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用する。また本剤を処理した床土または覆土を放置しない。
- 本剤の使用にあたり、極端な低温または高温条件下での育苗では生育抑制を生じるおそれがあるので、適切な温度管理につとめる。
- 本剤の処理により、水分の極端に多い特殊な育苗条件（プール育苗等）や培土種によっては軽微な薬害が認められることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。
- 本剤の処理により育苗期間中に黄化症状が認められることがあるが、移植後回復するので通常の管理を行う。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当りに乾籾として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整する。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意する。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

適用内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数		
稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種前	1回	本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)		
		高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g)							
	イネミズゾウムシ イネドロオウムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g							
		高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g)							
	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ 白葉枯病 もみ枯細菌病 ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ コブノメイガ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g						は種時 覆土前	本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する
		高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g)							

製品写真



最新の登録内容はこちら

